

昭和初期の開通して間もない頃の加悦駅

加悦鉄道の誕生と加悦駅舎

京都府与謝郡にある加悦谷地方は、古くから丹後ちりめんの生産地として繁栄してきましたが、交通運輸機関には全く恵まれていませんでしたので、明治二十五年に、ちりめん業者が中心となって丹後に鉄道設置を目的とする運動を起しました。大正八年には、宮津線ルートが決定されましたが、残念ながら加悦谷は通過しませんでした。

このような時、国が「京都府山田より兵庫県出石を経て豊岡に至る鉄道」の計画を発表したので、町民八百二十三名が出資した加悦鉄道株式会社を設立し、その一部（山田―加悦）を建設することにしたのです。

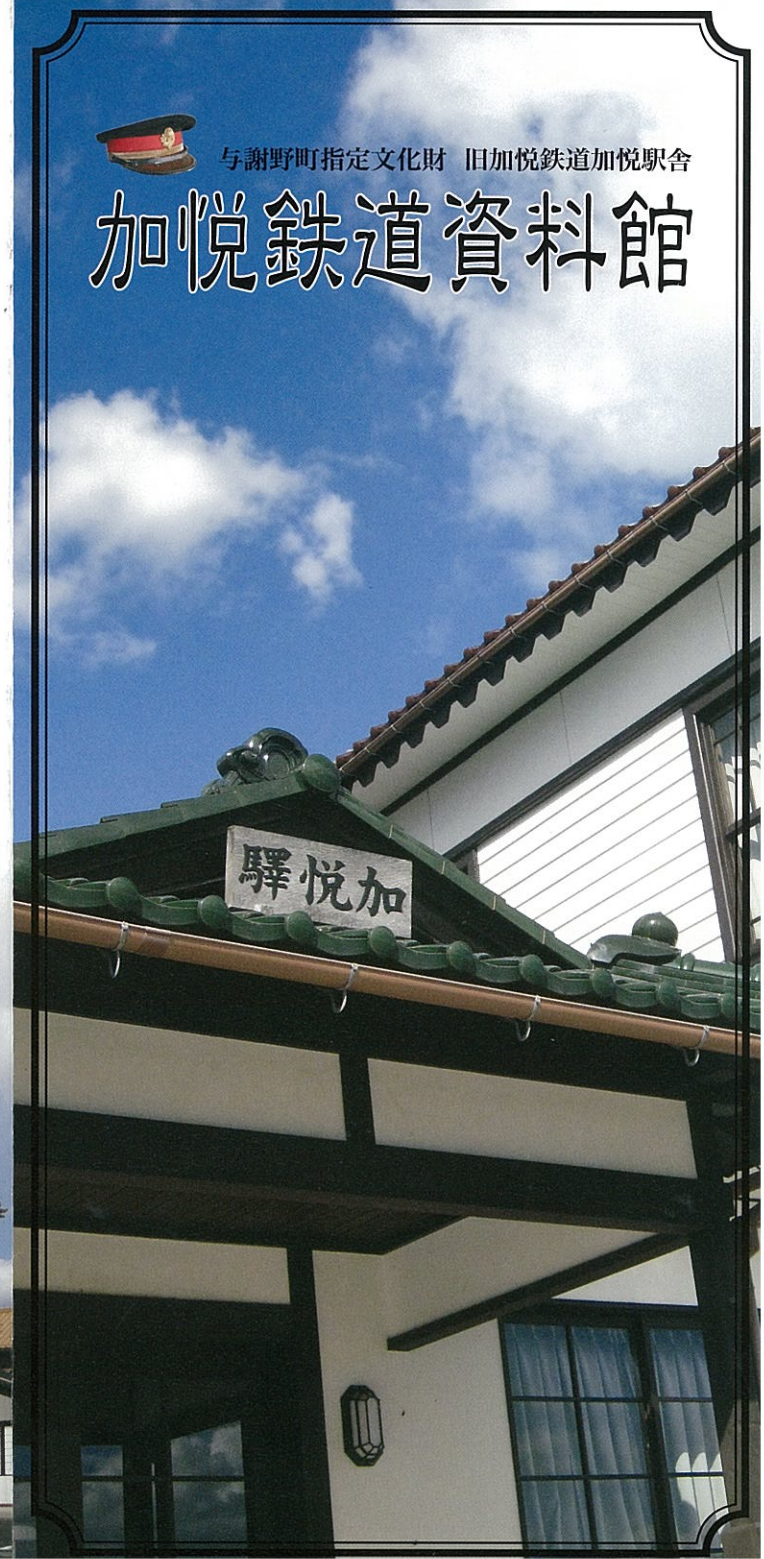
その後大江山に、ニッケル鉱石が発見され、昭和二十年まで岩滝の工場への輸送も担当しましたが、自動車の普及などにより、加悦鉄道は昭和六十年四月三十日をもって六十年に及んだ鉄道事業を終了しました。



開館時間 午前9時～午後5時
開館日 土曜日、日曜日および祝日
入館料 無 料
お問合せ TEL&FAX: 0772-43-0232
住 所 〒629-2403 京都府与謝郡与謝野町加悦433-8
駐 車 場 あり（無料）
交 通 KTR宮津線「野田川」駅からタクシーで約15分
鳥取豊岡宮津自動車道「与謝天橋立」ICから15分



発行者 与謝野町商工観光課
監 修 NPO法人加悦鉄道保存会



与謝野町指定文化財 旧加悦鉄道加悦駅舎

加悦鉄道資料館

館内は加悦鉄道の歴史がいっぱい

待合室 当時の加悦鉄道の雰囲気が漂っています。



当時の加悦鉄道の駅 路線距離(営業キロ): 丹後山田～加悦 5.7km

岩滝工場

日本冶金専用線(岩滝線)

丹後山田(たごやまだ)

(現: KTR 野田川駅)

水戸谷(みとだに)

丹後四辻(たごよつじ)

加悦高前(かやこうまえ)

三河内口(みごうちぐち)

丹後三河内(たごみごうち)

加悦(かや)

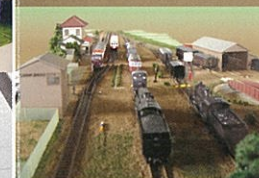
日本冶金専用線(大江山線)

大江山鉱山

(現: 加悦SL広場)



旧国鉄宮津線に乗り換え接続
※現: 北近畿タンゴ鉄道野田川駅



ジオラマで加悦駅構内を再現



館内のごあんない

第一展示室

通票閉塞器を備えた駅事務室が展示室になっています。汽笛や石炭の匂いさえも思い起こさせる雰囲気です。



第二展示室

加悦鉄道で実際に使われていた鉄道備品類や各種灯火類、保線工具などを展示しています。



加悦駅舎は洋風の木造二階建てで、建物の外観は白い板壁と赤と緑の瓦で彩られたその姿はカヤ葺き屋根が多かった当時、新しい町を象徴する建物として異彩を放ったことでしょう。

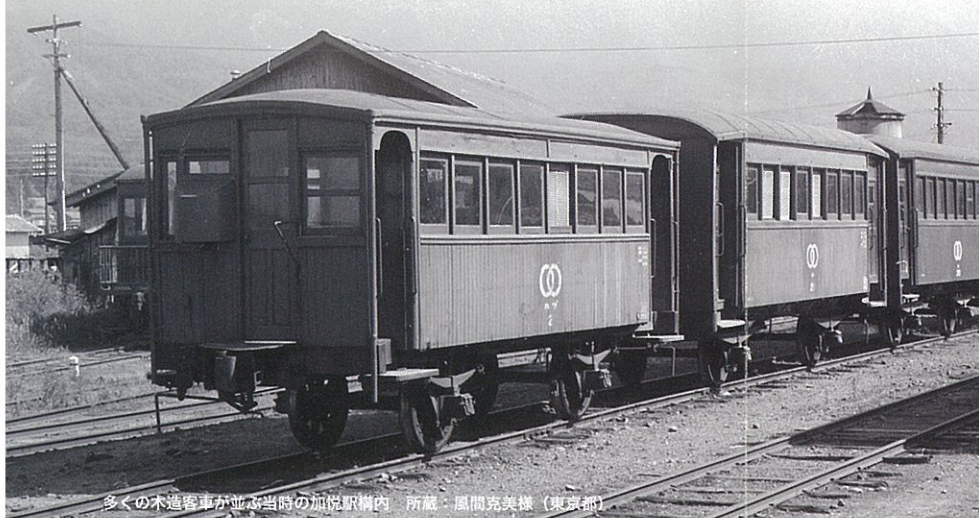


加悦2号蒸気機関車
(明治6(1873)年 英国Rt.Stephenson製)
※加悦SL広場にて展示公開中

その後、加悦駅舎は「日本の駅百選」に選ばれ、平成八年に加悦町指定文化財に指定されました。そして、同十三年に建物の曳き移転と修理が行われて、今日の美しい姿となりました。

“かやてつ”

地元丹後では、そういう呼称がされていました。ガタゴト音をたてて走る“かやてつ”は、冬には練炭ストーブで暖をとっていた時代もあり、人の温もりが感じられる鉄道でした。



4号機関車
(大正11(1922)年 川崎造船所兵庫工場製)
※加悦SL広場にて展示公開中

多くの木造客車が並ぶ当時の加悦駅構内 所蔵: 風間克美様(東京都)

